

校長 佐々木栄秀

保護者の皆様、日頃から本校の教育活動にご理解・ご協力をいただきありがとうございます。感謝申し上げます。我々教職員一丸となりまして、「すべての生徒の夢の実現」のために、懸命に頑張らせていただきます。どうぞ、よろしくお願ひします。本日、今年度初めて、校長メッセージを出させていただきますが、ゴールデンウィークを迎えるにあたり二つお願ひがあります。

【不登校にならないように】

一つ目は、休暇中における生徒の家庭での生活についてのお願いです。生徒たちは、新学期になり1か月が過ぎ、なんとなく疲れもたまっているところに、長い休暇を迎える、ついつい生活のリズムが狂いがちです。ゆっくりしたい気持ちもわかります。リフレッシュすることも大事ですが、休暇中メリハリをつけて行動してほしいと思います。スマホやゲームで一日を終え、夜中も続け、自分は何をしているのだと後悔しても後の祭りです。後悔すらできないほど中毒になっているかもしれません。休み明けに、学校に行きたくないなあと感じる生徒が毎年おります。自分の欲求の赴くままに行動するのではなく、自分の感情や行動を律し、自分の可能性を伸ばすことに力を注いでいただき、有意義な高校生活を送らせてください。ご家庭での教育・しつけをよろしくお願ひいたします。

【新型コロナウイルス感染症について】

二つ目は新型コロナウイルス感染症についてです。 感染の第4波が、日本全国で猛威を振るっています。第3波の時には、感染者がやや都会に集中していましたが、今回は日本全国に広がっています。福井県でも、先週は毎日二桁の感染者数が出て、

26人、38人と連日過去最高も記録しました。県独自の緊急事態宣言の発令により、人の流れが抑えられ、ここ数日、やや数字が減ってきたように思われますが、依然として、病床の占有率は高く、一層深刻な点は、PCR検査の遅れであったり、保健所・病院の医療従事者の医療業務が逼迫していることです。感染者や入院患者が数人の時期に比べ、連日、猛烈な量の業務が続いているおり、緊張とストレスがマックスになっていることと拝察します。さらに、通常の患者さんの医療が後回しになり、いわゆる「命の選択」を迫られる状況にならないかと心配です。助けられる命を助けられない事態にならないように、もう一度みんなでがんばりましょう。幸い、福井県では、県の指導、医療従事者の努力そして県民の理解により、感染経路の追跡はできているようですので、市中感染にならないように、平常を維持できるように、頑張りましょう。

また、本県では感染ゼロの期間がしばらく続いていましたので、現在のウイルスは従来型ではなく、ほとんどが変異型で、イギリス由来の大坂型だそうです。4月の全ての陽性者のウイルスを国立感染センターで調べてもらっているのですが、昨日発表では、約90%が変異型だそうです。この変異株がどうも大阪など関西圏の感染爆発の大きな要因になっているようです。

この変異型ウイルスは、まだ十分な科学的解明がなれていないものの、データなどから判断すると、感染力が強く、感染から発症までに期間が短く、重症化が速く、若者への感染が多くみられることなどが特徴的だそうです。県内でも、新学期になって、クラスターが発生し、休校している学校があります。

そこで、保護者の皆様には、イギリス由来の変異株の特徴を踏まえて、ご家庭で対策をお願いしたいと思います。次に、この変異株の特徴を紹介します。

【変異株の特徴と対策】

1 潜伏期間が短い。

感染してから発症（発熱・風邪症状）までの期間は、従来は4～5日ありましたが、変異型は3日だそうです。発症2日前には感染力があるウイルスなので、結果的に、感染した翌日には感染力を持つことになります。発熱や風邪症状がある人が病院に行き、すぐにPCR検査を行い、翌日陽性と判明した時には、もうすでに、職場や学校や家族でウイルスをばらまいていることになります。これが、従来よりも濃厚接触者の感染率が高く、家族感染が増えている原因の一つです。

さらに、感染者は無症状の人が多いために、感染の意識がないままに、知らずに感染している／感染させているのです。誰が感染しているのかわかりません。
いつでも、どこでも、マスクを！　マスクが究極の感染対策！

2 感染力が強い。

一感染者が感染させる割合が高まっています。県内の全ての感染者のデータを分析すると、従来型では、一人の陽性者から5人に1人の割合で感染が広がっていましたが、変異型では、3・3人に1人の割合で感染が広がっており、1.5倍強くなっていることがわかります。呼気に含まれるウイルスが1.5倍強くなっているということで、従来型では屋外での感染リスクは少ないとされてきましたが、変異型の場合では、屋外での活動やバーベキューにおける感染リスクが上がっているということが容易に理解できます。ゴールデンウィーク中に家族でバーベキューなどをするときには、特に、県外からの帰省者がいるときには、細心の注意をしてください。常にsocial distanceを！

3 子供の感染者数が増えている。

従来型では、子供（10歳未満・10代・20代）への感染例が非常に少なか

ったが、変異型では、小学生・中学生・高校生・大学生の感染例が目立ち、クラスターも発生しています。県の分析によると、感染者に占める子供の割合が増えているように見えますが、実は、子供が感染しやすいのではなく、子供の感染者数の割合が、年齢構成の割合とほぼ同じになっているのであって、言い換えれば、変異型は、年齢に関係なくどの年齢の人にも均等に感染するということだそうです。

4 重症化が速い。

首都圏などでは、変異型では、重症化の割合が高いとか重症化が速いとの分析があります。無症状の自宅療養者の容体が急変し、救急車で病院に担ぎ込まれ、翌日亡くなつたというニュースがあつたが、これは都会の話であつて、本県では、陽性者はすべて病院または宿泊療養施設に入つて医療の下で管理されているので、重症化そのものが少なく、重症化が速いというデータは本県には当てはまらないようです。

【油断大敵】

危険な例を紹介すると、都会の大学生で、帰省前にコロナの抗原検査をし、陰性を確認してから地元に帰省する人がいますが、ここに落とし穴があつて、帰省前の検査の後に感染てしまい、無症状でもあり、本人は陰性を確信していたのでマスクはせずに、親兄弟と会食などをして感染を広げた例があります。数日してから発熱があり、PCR検査を受けた時にはすでに感染が広がつていたのです。決して抗原検査やPCR検査は万能ではありません。実際、濃厚接触者に抗原検査を実施し、陰性が出たとしても、数日後に微熱が出て、再度検査をしたら陽性が判明した例もあります。検査は万全ではありません。「マスク着用」に勝る感染対策はありません。

5【改めて、感染対策】

これまで申し上げてきたことの繰り返しになりますが、新型コロナウイルス感染症の対策として、検温、マスク着用、手洗いの励行を徹底し、「4密」を避ける行動を徹底してください。 密閉した空間での活動を避け、常に換気をしてください。また、人と適当な距離を取り、大きな声で話をしない。マスクを取る食事時その他に、運動や歌う時など、大量の空気を吸う活動の時には、最大限の注意を払ってください。 分析が進み、新型コロナについては、接触感染の例は極めて少なく、ほとんどは飛沫感染だそうです。マスクが最強！

そして、家庭内に、PCR 検査を受けた人、濃厚接触と指定された人、感染した人がでた場合には、すぐに学校か担任に連絡をし、さらに、生徒の皆さんは、感染リスクがないと判明するまで、自宅待機をしてください。

【最後に】

生徒の皆さん、毎日、友達と楽しくおしゃべりできるように、毎日、部活動の練習を続け強くなれるように、また、対面で授業をして学習がはかどるように、ウイルスをもちこまないよう、皆で注意しましょう。

もちろん、注意をしていても、誰でも感染する場合があります。決して、間違った情報や誤解・憶測を拡散したりしないように。さらに、感染してしまった生徒を誹謗・中傷する卑劣な行為は控えてください。

なお、感染には人間の免疫力が大きく関係しているようです。十分な睡眠、適切な食事、適度の運動を欠かさずに、免疫力を高く保ちましょう。

ゴールデンウィーク後に、元気に皆さんと会えるのを楽しみにしています。